

2020年4月22日(水)

在校生の皆さん、保護者・ご家族の皆様へ

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

校長 石飛 一吉

## 今を頑張っている君たちを応援しています

春を謳歌するかのようにバラを始め、ブルーベリー、イチゴ、フジ、リンゴなどの花が咲く季節になりました。しかし、国内外の新型コロナウイルス COVID-19 感染症拡大は、未だに予断を許さない厳しい状況にあります。皆さんも、この状況下、不要な外出をすることもなく課題に取り組みながら、さまざまな工夫をして過ごしていることと思います。

「自学自習のすすめ」は、本校がめざす教育の一形態で学校では6時間目が終わった後に25分間の **SStime** (Self Study time) を設定して、各自が自分自身で課題に取り組む工夫をしています。新しい学習や大学での学習が、「自ら学び取る」教育に変わりつつある今、これまでのように「与えられる教育」「教え込まれる」ことに満足してはいけません。これでは、いつまでも私たち教員、大人を超えられないことになってしまいます。

知識量や方法だけで言えば、年長者である大人にはかなわないでしょうが、独創性や創造性には年齢制限はありません。もちろん、ICTに関しては私たちより技術力のある若い人はたくさんいます。ただ、そのためには基礎知識だけでなく、社会構造や基礎的方法などを体験しておく必要があります。その土台は中学高校時代の学びにあります。それを自分の力で獲得することで、知識と方法が同時に手に入るのです。

授業のない今こそ自分の手で「学ぶ方法」を獲得するチャンスとも言えるでしょう。そのためには、自分で学習(練習)計画を立てることです。それは部活動でも、スポーツでも同じです。「やらされている」間は、うまく上達しないのです。いま一度、自らの学習習慣を振り返り、思考と行動と生活習慣を改善して人間力を磨きましょう。

そこで皆さんが課題に取り組んでいる間、私も自主的課題に取り組んでみました。

作品の一つは「マスク姿のモナリザ」。モナリザは、16世紀初頭、フランスのレオナルド・ダ・ヴィンチが描いた有名な肖像画で、そのモナリザがマスクをしているパロディ画。同様のモチーフは他の人も作成しています。ただモナリザの絵自体は古くて著作権はないのですが、今日ではその絵を撮影した写真に著作権が生まれています。そのため絵画集に掲載されている絵をそのまま使うことができません。そこで模写を考え、私が毎年、年賀状で描いている旅先での点描画のようにたくさんの点で表現してみました。今回は1万5千個ぐらいの点を描きました。

今回のコロナ禍が騒がれるまで、海外では普段でも白いマスクを外さない日本人の姿はある種「異様」に思われていました。これはニュージーランドでも同じで、中学3年の修学旅行に参加した人は、現地で同じような経験したことでしょう。保健衛生上以外のマスク利用について「表情を読まれないようにする」という新境地を開いた日本人ですが、今やマスクをすることが世界中のエチケットになっています。こんな世の中ですが、マスクをする皆さんには笑顔で前に向かってほしいと願っています。残り2つの作品は、文字の切り抜きが主で苦労はありません。ただ、1つだけ「クジラ」の切り絵を作りました。さて、いかがでしょうか？

まだしばらくは耐えざるを得ない生活が続きますが、教職員一同、いつでも皆さん迎え入れられるよう、定期的に消毒し、衛生管理に気を配りつつ、笑顔の皆さんと会えることを楽しみに待っています。